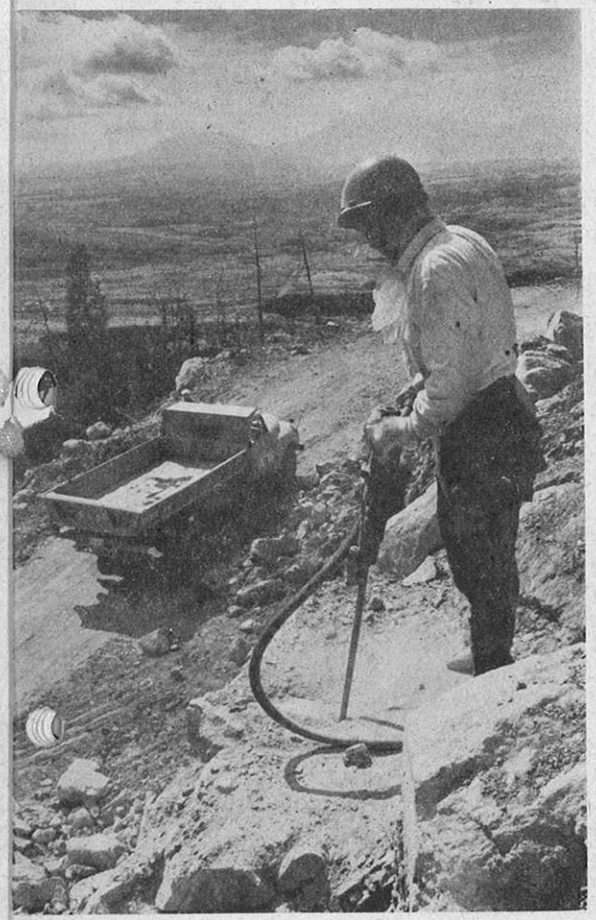
辺の地域が、将来熊本県の工業化を促進していく舞台となる地域であるわけです。

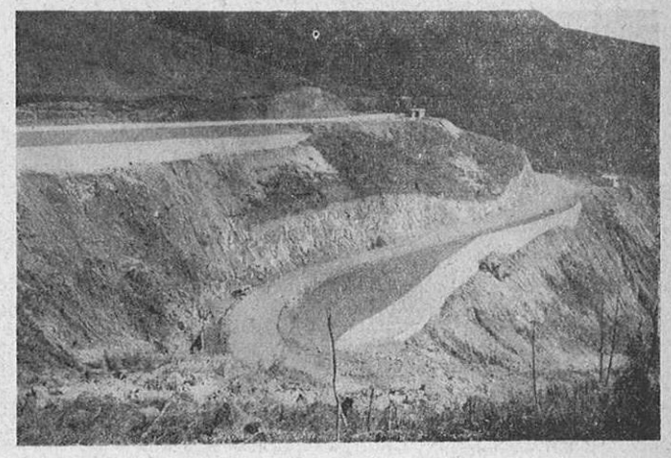
県ではこれらの地域を「有明不知火地域」として、九州における中核的な産業都市として開発するため、いま「新産業都市」の対象地域として申請しています。この指定は、必ずしも目ハナがついたわけではありませんが、これとは別に、さき頃「低開発地域工業開発促進法」の対象地域として、「有明」（玉名市、長洲町、岱明町）「熊本」（熊本市、宇土市、富合村）の両地区が採択され、工業の振興について、いろいろ恩恵をうけることができるようになりました。

## 道路の整備に二十二億円

さてここで、農業の近代化を進めたり、工業化を進めたりするためには「産業基盤の整備」を進めなければならないことになります。

そこで、まず「道路」の問題にふれてみましょう。





九州横断道路の工事進む



本県の道路整備が非常におくれていたというわけで、道路の整備には特に重点をおき、今年度は総額二十一億九千余万円の予算を計上しました。これは前年度にくらべて、約一億八千万円もふえたわけです。

国道では三十四年度には年間約四億円しか事業費がついていなかったのが、三十六年度には十二億円という、一躍三倍にもふえてきており、今年度はもつとふえてきています。

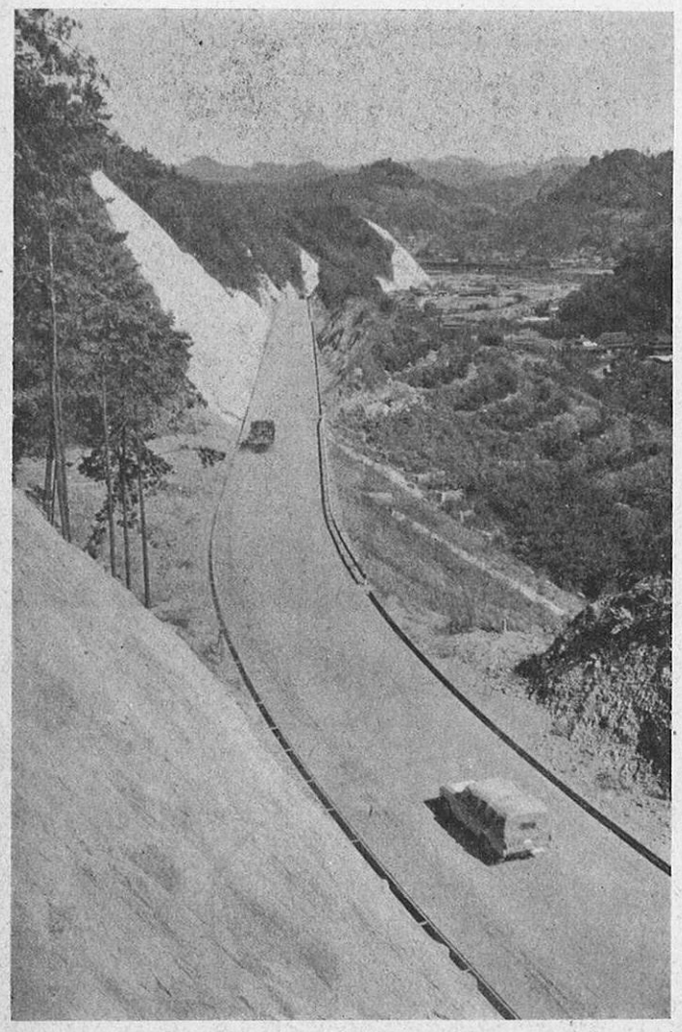
また、別府から九重、阿蘇を通つて熊本、三角へと通ずる「九州横断道路」の建設も、三十五年から着工し、東京オリンピックの三十九年完成を目標に、いま工事が進められています。しかも、大分・熊本線は今年から一級国道に昇格しました。

また、三十五年には「九州縦断道路」が貫通し、これが今年二級国道に昇格しています。

今後これらは、相当早いスピードで整備されていくことでしょう。

観光道路としては、阿蘇湯の谷から山上へ通ずる道路が、一部厚生省の補助をうけて貫通しました。

更に、これまで長い間の懸案であつた一級国道「三太郎峠（芦北郡）の改修」も、すでに着々と進められており、その一環である津奈木太郎のトンネルが、今年の十月に開通しました。



できあがつた津奈木太郎、下は同トンネル